

偏見や差別といった広義の集団間葛藤問題は、社会心理学の黎明期から盛んに研究されてきた。同時に、集団間葛藤問題は政治学や経済学でも扱われている学際的な領域に属する問題でもある。本発表では、社会心理学では古典とされる権威主義的パーソナリティを現代版にリバイズしたとも言える社会的支配志向性という個人差特性に着目し、日本人の偏見との関わりを示した研究を紹介する。特に、社会的支配志向性と公正世界信念が独立に偏見と関連することを示した未発表データも紹介する。また、発表者が行ってきた政治学や経済学との共同研究の内実も紹介する。これらを踏まえ、個人差変数を分析することで得られる知見の持つ意味・意義とその限界に関する点、また、心理学が他分野に対してもインパクトを持ちうる研究となるためにはどうしたらいいかという点について、出席者と議論を行いたい。

社会支配志向性と偏見との関連 — 学際研究の視点も含めて —

【講師】 三船 恒裕 氏

(高知工科大学経済・マネジメント学群 准教授)
2019年度第1回院生企画研究会

2019年
9月4日(水)
14:00 ~ 17:30
入場無料
事前連絡不要

【場所】 関西学院大学大阪梅田キャンパス
(アプローズタワー14階 1406号室)

阪急「梅田駅」茶屋町口から徒歩5分
JR「大阪」駅御堂筋口から徒歩10分
地下鉄(大阪メトロ)御堂筋線「梅田」駅から徒歩7分

主催：「社会心理学研究会」班 関西学院大学先端社会研究所共催